ワイド特集

悪魔の証明

五輪やり投げ・村上幸史 妻へのDVと不倫訴訟

と結婚式を挙げたのは一九九八年四月。翌年五月に、長女・恵さんが誕生した。

「当時、愛娘とのツーショット写真を披露した会見では、『胎教でもテニスの壁打ちの音を聞かせた。娘のテニスは伊達公子さんにコーチをお願いしようと思っている』と、デレデレでした」（スポーツ紙記者）

しかし時は流れ、高校二年生の恵さんはタカラジェンヌへの道を目指した。

宝塚歌劇団を含む阪急東宝グループの創業者・小林一三氏の玄孫（やしゃご）にあたる恵さん。祖父は東宝名誉会長、祖母は元星組男役スター、さらに元花組トップ・蘭寿とむ（41）が昨年修造の従兄弟と結婚――。宝塚における比類なきサラブレッドなのだ。

「恵さんは、母親と同じ、日本女子大学附属高校に系列の小学校から通っていましたが、ここは宝塚を目指す生徒が多い。去年音楽学校を卒業した君島十和子さんの娘もそう。校内に通称『オータカ』（OH＊宝塚）と呼ばれる宝塚サークル活動があり、文化祭で宝塚のコピーをステージで披露する。百七十センチ近い身長でクール系美女の恵さんを、『メグさま』と慕う下級生のファンは少なくなかったそうです」（学校関係者）

二〇一一年、本誌「阿川佐和子のこの人に会いたい」で、修造は、ミュージカル「レ・ミゼラブル」を娘と観劇し、休憩時間に〝説教〟したエピソードを披露している。

〈「何を感じたんだ。コゼットから何を感じたんだ！」〉〈「あのジャン・バルジャンの気持ち、お前にはわからないのか！」とか。でも、小学六年生にはまだ早かったかもしれませんね（笑）〉（七月二十一日号）

こうした早期教育の成果かもしれない。

「元々歌や音楽が得意で、中三で宝塚受験を決意してからバレエのレッスンを始めたと話していました。父からは、『受けるからには中途半端な気持ちじゃなく本気でやれ！』と言われていたそうです」（前出・記者）

宝塚音楽学校の受験資格は高校進学の決定した中三から高三までの四年間しかない。三回目、最終チャンスの四回目の挑戦でようやく合格できることも稀ではないという。

冒頭の父のブログにも、〈宝塚の血が流れる父〉とあるように、合格には何かしらの〝忖度〟があったのかと思いきや、全くのコネなしだという。

「昔から宝塚受験に縁故合格はありません。どんなに有名な元タカラジェンヌの娘でも受からなかった例はいくらでもあります。今年の倍率も約二十六倍の狭き門でした」（同前）

スミレの花を自力で咲かせた長女は、「君ならできる！」を見事証明した。

〈村上：俺…。ホワイトチョコ出すの早かった？
良子：昨日早かったね!!
なんで？
村上：気持ち良すぎた。良子が求めてきたから。
良子：気持ち良かったね。最近むっちゃ求めちゃう〉

こうしたLINEを不倫相手と百数件も繰り返していたのは陸上界のレジェンド・村上幸史氏（37）だ。

村上氏はやり投げ競技でアテネ、北京、ロンドン五輪に出場、ロンドンでは日本選手団の主将も務めた。〇九年の世界陸上では銅メダルを獲得。同競技初の日本人メダリストとなった。

「現在、村上氏は現役を続けながら、日本大学文理学部体育学科助教を務める教育者の顔も持っています。ところが、彼は妻子持ちなのに女子大生と不倫関係にあると学内で騒ぎになったのです」（日大関係者）

村上氏と不倫関係にあると指摘されているのが文理学部英文学科に学ぶ二十歳の山本良子さん（仮名）。女子大生コンテストの出場歴もあるタレントのおののか似の美女だ。取材を進めると良子さんは村上氏の妻A子さんから、不倫を理由に訴訟を起こされていた。

訴状によると不倫が発覚したのは昨年の十二月。A子さんが村上氏の言動を不審に思い、問い詰めたことがきっかけだった。

「村上氏と良子さんは、学内で知人を通じて知り合い不倫関係になった。村上氏はやり投げの試合で遠征する際にも、良子さんを呼びホテルで関係を持っていたことも発覚。良子さんは英文学

訴状にも記載されている村上氏と良子さんのLINE

一度は正座して謝罪した２人だったが……

今も競技を続けている村上氏

科なのに、村上氏は自分の体育学科ゼミに参加させるなど公私混同も激しくなっていった」（A子さんの知人）

村上氏とA子さんは陸上競技を通じて知り合い〇七年に結婚、一児を儲けている。ショックを受けたA子さんは村上氏との離婚を考えるようになったという。

訴状で明らかにされている二人のLINEは冒頭のように赤裸々だ。〈村上：レロレロしなさい〉という欲望丸出しの会話から、〈良子：奥さんの感情とか、そんなもん知ったこっちゃないし〉と腐したり……。

「一度、村上氏と良子さんは正座して『二度としません』と奥さんに謝罪した（写真）。しかし浮気だけではなくDVもあったので、A子さんは離婚協議を進め慰謝料を含め合意した。それなのに村上氏は不倫を再開し、突然、『慰謝料は払わない』、『結婚は破綻していた』と居直ったのです」（前出・知人）

A子さんは小誌の取材にこう答えた。

「裁判についてはお話ができないんです。夫から暴力を振るわれボコボコにされたこともあり、DVについては別に診断書を取り警察に被害届を出しました」

村上氏を直撃すると、シドロモドロにこう釈明した。

――良子さんと不倫を？

「事実ではないです。LINEも写真もデッチ上げられたもので策略です」

一方、不倫相手とされる良子さんは「〔不倫について〕いまは答えられない」と歯切れが悪い。

未だ離婚は成立せず事態は泥沼化しているが、村上氏はどこ吹く風。小誌記者の直撃後も良子さんの家に通い、「『いずれ良子と結婚する。大学にも居据われるはず』と嘯いている」（前出・日大関係者）という。

日大広報の回答。

「不倫が事実であれば遺憾ですが、村上本人は『不倫関係はない』と全否定しています。取材後にも女子学生の部屋に行ったことは認めていて、一般的にはありえないことなのですが……」

もしかして、人生〝投げやり〟になっている!?

負債151億円てるみくらぶ 女社長の カネ・カネ・カネ

都内在住の四十代女性が身震いする。

「娘と二人で香港に行くため、空港へ向かう電車の中で、前日深夜に来ていたメールに気付きました。〈航空券が利用できない事態が発生し、宿泊も確認できない〉。あのまま気付かなかったらどうなっていたか」

三月二十七日、格安海外旅行を販売していた「てるみくらぶ」が破産した。冒頭の女性のように入金済みで被害に遭った客は、約九万人に上るという。

「旅行会社は、先に客から代金を得て、航空券やホテルは一、二カ月後に後払いする。てるみは赤字の価格で売り、後に支払い金が足りなくなると、新たに現金払いツアーで金を集め、その穴を埋めることを繰り返す自転車操業でした。一四年からは業績を開示しなくなり、粉飾にも手を染めていた」（信用調査機関）

旅行業としては、リーマンショック以降最大となる負債総額約百五十一億円の倒産劇で、注目を集めたのが、山田千賀子社長（66）だ。会見の場に茶髪で現れた山田氏は、涙ながらに「詐欺を働くとか、そんなこと最初から毛頭考えておりません」と訴えた。

「昔からきれいな人でした。でも、プライベートの話はほとんど聞いたことがありません。独身だったと思います」（同社関係者）

島根県出身の山田氏は出雲高校を経て、一九七三年に神奈川大学外国語学部を卒業。この年、日本航空を退社した三十三歳の益永高吉氏が設立した旅行会社「アイ・トランスポート（アイ社）」に新卒で入社する。

「入社三年で取締役営業部長となり、その後、三十二歳の若さで社長に就任。アイ社の後身「てるみくらぶ」でも益永会長、山田社長の体制で三十五年続けてきました」（前出・信用調査機関）

空前の海外旅行ブームとなった八〇年代に、山田氏とつきあいのあった旅行会社社長は、こう語る。

「業界でも当時は、自分も旅行好きという人が多かったのですが、山田さんはそういうタイプじゃなかった。とにかく稼ぐことばかり考えている印象でした。旅行会社なのに、投資もしていた。過去にも破綻しかけたことがありますが、集客力があったので取引先が支援した。今回も、何とかなると思ったのでしょう」

だが、現場はブラック企業の様相を呈していた。

「とにかく売上げ至上主義で、社員には日単位でノルマが課されていた。新人を

うなだれる山田氏

オフィスに人影はなし

週刊文春

4月13日号　定価400円